

ジャパンSDGs アクションフェスティバル 開催レポート

コロナ禍からの復興と行動



JOIN! JAPAN
SDGs
ACTION
みんなで作ろう、みんなの未来
FESTIVAL

ジャパンSDGsアクションフェスティバル

主催	ジャパンSDGsアクション推進協議会
プレミアム パートナー	auじぶん銀行株式会社/MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社/清水建設株式会社/株式会社セブン&アイ・ホールディングス/東洋ライス株式会社/凸版印刷株式会社/株式会社フラグスポーツ/株式会社日刊工業新聞社/日本ガイシ株式会社/みんな電力株式会社/ライオン株式会社/LINE株式会社/レンゴー株式会社
オフィシャル パートナー	株式会社朝日新聞社/学校法人岩崎学園/NTTコミュニケーションズ株式会社/株式会社大林組/サラヤ株式会社/株式会社ジェイコム湘南・神奈川/湘南電力株式会社/住友バークライト株式会社/大和ハウス工業株式会社/フィード・ワン株式会社/古河電気工業株式会社/株式会社みずほフィナンシャルグループ/株式会社三井住友銀行/三井住友信託銀行株式会社/株式会社三菱UFJ銀行/株式会社横浜銀行/株式会社リビエラ
メディア パートナー	株式会社朝日新聞社/株式会社NHKエンタープライズ/株式会社ジェイコム湘南・神奈川/株式会社日刊工業新聞社/ザ・ハフィントン・ポスト・ジャパン株式会社/株式会社文藝春秋
連携 パートナー	江ノ島電鉄株式会社/小田急電鉄株式会社/京浜急行電鉄株式会社/相模鉄道株式会社/東急電鉄株式会社/東京地下鉄株式会社/一般社団法人 FUKKO DESIGN/横浜高速鉄道株式会社/横浜市交通局（横浜市営地下鉄）/Peatix Japan株式会社

協議会メンバー



私たちは日本における「行動の10年」を加速させる為、2020年の夏に政府、経済界、自治体、市民団体、ユース団体などで構成するジャパンSDGsアクション推進協議会を立ち上げました。

このフェスティバルは、コロナ禍からの復興と行動に向けて「気候変動」や「貧困と格差・いのち」、「ユース世代・ジェンダー」、「持続可能な金融システム」、「ローカライゼーション」といった5つのテーマに関して、多様なステークホルダーが集い、SDGs達成に向けた課題や多くの活動事例、先進事例を共有し、今どういった行動が必要なのかを皆様と共有することを目的としています。

具体的には二日間にわたり2つのチャンネルで20のセッションをライブ配信しました。特に、2030年には社会の中心となる、ユース世代が多くのセッションに登壇し、具体的なアクションや社会に対する変革のメッセージを発信しています。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、多くの人々に一人一人の行動が社会そして経済に大きな影響を与えるという認識を与えました。グローバル化の負の側面や、持続可能でない社会というものもこの新型コロナウイルス感染症によってあぶり出されました。

大きなダメージを受けた立場の人達を優先しながら経済を回復させ、誰一人取り残されないという理念に基づいて、SDGsがこの社会の道しるべとなって今後の行動を行っていく時です。そういった時にこのフェスティバルが開催されたのは本当にタイムリーなことだと思います。

キーワードとして「みんなで作ろう、みんなの未来」を掲げています。このフェスティバルを契機として心をひとつにしてコロナを乗り越えて、そしてより良い復興を実現させたいと思っております。

最後に、新型コロナウイルス感染症の危機的な状況下の中での開催にあたりまして、ご協力いただいた登壇者はじめパートナー企業の皆様、自治体の皆様、関係者の皆様方に感謝申し上げますと共に、未だ感染症との長い闘いの渦中で私たちの生活を支えて下さっている医療従事者の皆様に心から尊敬と感謝の念を申し上げたいと思います。

ジャパンSDGsアクション推進協議会
会長 蟹江憲史





フェスティバル概要

- 名 称** ジャパンSDGsアクションフェスティバル
- 日 程** 令和3年3月26日(金)・27日(土) 10:00~17:00
- 趣 旨** 「コロナ禍からの復興と行動」に向け、多様な活動事例を示すことで具体的なアクションを呼び起こすカンファレンス等を、推進協議会会員団体や国内のSDGs関係団体、国内メディアと連携して開催
- 基本テーマ**
- ①気候変動
 - ②貧困と格差・いのち
 - ③ユース世代・ジェンダー
 - ④持続可能な金融システム
 - ⑤ローカライゼーション
- 配 信** オンラインでのライブ配信（2つのチャンネルで配信）
<https://www.japan-sdgs-action-festival.jp>
<当日視聴数> 16,641回
- アーカイブ** <https://www.japan-sdgs-action-festival.jp/live/>
- 登 壇 者** 延べ165名
- 主 催** ジャパンSDGsアクション推進協議会



セッション一覧

各セッションの概要は<>に記載のページをご覧ください。

【総合司会】

チャンネル1：櫻田彩子（エコアナウンサー/特定非営利活動法人気候ネットワーク理事）

チャンネル2：MITSUMI（FMヨコハマDJ/かながわSDGsスマイル大使）

3月26日（金）10時～17時	
チャンネル1	チャンネル2
10	10:00～11:10 オープニングセレモニー<P.6-7> トークセッション SDGsアクションで目指す『Vibrant INOCHI』未来社会～コロナ禍からの復興と行動～<P.8>
11	11:30～12:10 【その他】 一人一人の力を生かす「新しい復興支援」<P.26>
12	11:10～12:40 【その他】 SDGs関連アワードが集合！<P.27>
13	12:30～14:10 【ユース世代・ジェンダー】 誰もが、世界を変える力を持っている。<P.15> ～ユース世代からの行動のメッセージ～
14	12:50～13:20 【金融】 「論語と算盤」でSDGs～渋沢栄一に学ぶ～<P.22>
15	13:30～14:40 【ローカライゼーション】 企業価値を向上させるSDGsとは<P.24> ～地域×SDGs×ビジネスSDGsインディケーターが変える未来～
16	14:30～17:00 【ローカライゼーション】 ローカルSDGsのデザイン<P.23> ～地域循環共生圏のつくり方～
	14:50～15:50 【ユース世代】 外国につながるのある私たちと日本の学校<P.18>
	16:00～17:00 【貧困と格差・いのち】 国連WFPと一緒にゼロハンガーへ<P.14> (今日からできるSDGs Actions)
3月27日（土）10時～17時	
チャンネル1	チャンネル2
10	10:00～11:30 【ユース世代】 SDGs Quest 未来甲子園 神奈川県大会 <P.16-17>
11	10:00～12:00 【貧困と格差・いのち】 (同時開催) ME-BYOシンポジウム2021<P.12-13> ～未病改善を通じた健康づくりと感染症対策～
12	11:40～12:20 【気候変動】 10年後の気象災害をへらすために、あなたにもできること。<P.9>
13	12:20～13:40 【ローカライゼーション】 地産地消で守る！生物多様性<P.25>
14	12:30～13:00 【その他】 SDGsの伝え方<P.28>
15	13:10～13:50 【その他】 ファッションとSDGs<P.29>
16	14:00～14:30 【ユース世代】 未来へのアクション！高校生ボランティア<P.19>
	14:40～15:20 【ユース世代】 Z世代の環境活動家の“頭の中”を田原総一郎が直撃 by 相席なま田原 <P.20>
	15:40～16:20 【ユース世代】 私たちが行動する中高生になったわけ<P.21>
	16:20～17:00 クロージング<P.30-31>

▶ 幕間でローカルSDGsアクションやメッセージ動画を発信





オープニングセレモニー

2021.3.26(Fri) 10:00~10:30 オンライン配信 (視聴無料)



蟹江 憲史

(ジャパンSDGsアクション
推進協議会会長)



UN Photo/Mark Garten

アミーナ・J・モハメッド

(国連副事務総長)



Photo/UNDP

アヒム・シュタイナー

(国連開発計画総裁)



のん

(女優・創作あーちすと)



黒岩 祐治

(神奈川県知事)

宇都隆史 (外務副大臣) / 紺野美沙子 (俳優/UNDP親善大使) / ピコ太郎 (グローバル・シンガーソングライター) / さかなクン (国立大学法人東京海洋大学名誉博士/客員准教授)

アミーナ・J・モ
ハメッド
国連副事務総長



<メッセージ抄>

今回、黒岩知事そして全ての皆様とともに日本独自のSDGsアクションフェスティバルに参加することができ大変光栄に思います。

本イベントは重要なタイミングで開催されています。今こそ変革のときであり、勇気を奮い起こし行動する時です。SDGsが私たちの道しるべです。

私たちの責務はCOVID-19への対応と復興への取り組みによって進展を加速させることです。

2019年以降日本各地の自治体が「SDGs日本モデル」宣言に賛同しています。「行動の10年」を通じて、この熱い機運を日本全体に広げることが不可欠です。

この機会を捉えて人々と地球のためSDGsの取り組みをふたたび活気づけていきましょう。

アヒム・シュタ
イナー
国連開発計画総裁



<メッセージ抄>

本フェスティバルはSDGs達成に向けた各地の様々な革新的取り組みに光を当てます。

気候変動や貧困、格差、若者やジェンダーの問題、持続可能な金融や地域づくりなどを議論するきっかけとなるでしょう。SDGsの進歩をいかに加速できるかそれを考える場として、日本は最高の舞台です。

日本を訪れる度、私はSDGsに対する日本人の知識や熱意に感心させられています。

人々が日々直面する課題への対応策として、新たなアプローチや解決策を模索する場を本フェスティバルを通じ提供してくれました。コロナ禍から立ち上がる世界やコミュニティを支援することでSDGsは徐々にですが、これまでになく明確に見えてくるのです。

黒岩祐治
神奈川県知事



<メッセージ抄>

「ジャパンSDGsアクションフェスティバル」をここ神奈川県から開催できることを、国連開発計画（UNDP）はじめ関係者の皆さまに敬意を表するとともに、感謝いたします。

「いのち輝く神奈川」のために、医療・環境・エネルギー・街づくり全ての施策をリンクさせて取り組んできましたが、この考え方はSDGsにそのままつながります。こうした取組みが評価され、国連のハイレベル政治フォーラムに招聘されて講演したことを縁に、UNDPとSOIを結び、今回のフェスティバル開催に繋がりました。

コロナ禍では様々な学びがありました。SDGsで一番大事なことは、「自分事化」すること。そしてそれを行動変容につなげることです。未病状態を見える化する「ME-BYO INDEX」等も活用し、現在の状態を見える化し、行動変容を促していきます。そして生きがい、健康長寿、笑い、コミュニティなど全てを繋げて「Vibrant INOCHI」を目指していきます。

フェスティバルを通じて世界中が繋がることでSDGsが更に広がり深まっていく事を心から期待しています。

宇都隆史
外務副大臣



<メッセージ抄>

世界が今大きな変化に直面する中で、日本は新たな時代を見据え未来を先取りする社会変革に取り組まなければなりません。その為には政府、国際機関、地方自治体、民間企業、個々人に至るまで、それぞれの立場で、また互いに連携しながら変革への取り組みを始めることが不可欠です。

今回のイベントを機に新たなパートナーシップが生まれSDGs達成に向けた取り組みが全国さらには世界へと波及していくことを期待しております。

のん

女優・創作あーちすと／SDGs People
第1号

<メッセージ抄>

つくる責任つかう責任という項目にすごく共感して、その共感の部分から自分にもできるかもしれないと思ってSDGs Peopleを受けさせていただきました。地球のことを深く考えるきっかけになりました。今回のフェスティバルでは、若い世代の取組みに期待しています。

紺野美沙子

俳優/UNDP親善大使

<メッセージ抄>

私たちは環境格差・紛争など様々な問題に直面しています。そして何より最も立場の弱い人が大きな打撃を受けています。私にできることは伝える事、そしてSDGsに取り組む仲間を増やすことです。このフェスティバルがそれを考えるきっかけになればうれしいです。

ピコ太郎

グローバル・シンガーソングライター

<メッセージ抄>

誰一人取り残さない。コロナ禍の今こそSDGsの掲げるこの言葉がとても重要つまりimportant。そしてそのために誰しもが何かできる、わたくしピコ太郎も何かできる。ということでSDGsや手洗いを通じて笑顔を届けるために頑張っております。

さかなクン

国立大学法人東京海洋大学名誉博士／客員准教授/SDGs People

<メッセージ抄>

自然の中にいると心が洗われて、自分も自然の一員なんだなという気持ちがいだけます。是非ともこの美しい地球環境を壊さないように汚さないように、SDGsについて一緒に考えてさせて頂きたいです。



SDGsアクションで目指す 「Vibrant INOCHI」未来社会

～コロナ禍からの復興と行動～

2021.3.26(Fri) 10:30 ~ 11:10 オンライン配信(視聴無料)

セッション登壇者



蟹江 憲史

(ジャパンSDGsアクション推進協議会会長
慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授)



根本 かおる

(国連広報センター所長)



宮田 裕章

(慶應義塾大学医学部 教授
神奈川県 Value Co-Creation Officer)

<概要>

SDGs達成に向けたコロナ禍の世界的な影響について、データに基づく説明がなされた。

コロナの影響により、経済合理性以外の軸が世界的に認識されてきている点、またコロナ禍を経て、SDGs達成のカギとなる、オンラインデジタル技術の活用など、12の方策が提示された。

また、データの特性として共有が可能であり、多様性への配慮が可能になる点があげられた。さらに、データ利用が無視できない世界になると経済活動にも新たな側面が求められる点についても言及があった。

日本は高齢化をはじめとする課題先進国であり、日本がどうフロントランナーとして乗り越えていくのか、世界へのベストプラクティスとして非常に注目されていることが共有された。

今後は、デマについて科学的に対応する必要性や、貧困や格差対策にデータを活用してより早い段階で対策を打つなど、データを活用してSDGs達成に向けた新しい取組みを実現していくべきであることが共有された。





10年後の気象災害をへらすために、 あなたにもできること。

2021.3.27(Sat) 11:40 ~ 12:20 オンライン配信(視聴無料)



荒木 健太郎
気象庁 気象研究所 研究官



根本 かおる
国連広報センター 所長



ファシリテーター
河瀬 大作
NHK エンタープライズ 番組開発部長

<概要>

10年後の気象災害をへらすためにできる具体的なアクションやアイデアを議論された。

気候変動に対する日本人の危機意識の無さ、気候変動対策が生活の質に影響を及ぼすとネガティブにとらえる日本人が多い、などの課題が示された。

一人ひとりが気候変動について意識を持っているかが大きな流れを作るカギとなる中、そういった意識を変えるために、一般の人と連携して観測データを取得する取組みや、自然に親しみ楽しむ中で想像し、意識を高め、自分事化していくことの重要性について提案があった。

また、若い人たちの意識が変わっていることへの期待や自然と人間との関係性を謙虚に見つめることについての提案があった。





気候変動フォーラム

～気候変動への挑戦とコロナ禍からのグリーンリカバリー～

2021.3.27(Sat) 14:00～16:00 オンライン配信 (視聴無料)

挨拶



小泉 進次郎
(環境大臣)



末吉 竹二郎
(気候変動イニシアティブ代表)

トークセッション登壇者



モデレーター
国谷 裕子
(キャスター
慶應義塾大学大学院特任教授)



江守 正多
(国立環境研究所
地球環境研究センター)



高村 ゆかり
(東京大学未来ビジョン
研究センター教授)

<挨拶>



| 小泉進次郎環境大臣

2050年カーボンニュートラルに向け、この5年、10年が勝負。技術のイノベーションと共にルールイノベーションが必要となる。カーボンプライシング、地球温暖化対策推進法改正、プラスチックの新しい法律整備で、再生可能エネルギー活用や使い捨てプラ削減、サーキュラーエコノミーの取組みを進める。

| 末吉竹二郎気候変動イニシアティブ代表

今、世界は気候変動ではなく気候危機と捉え、パリ協定により低炭素から脱炭素に向けてチャレンジしている。日本の覚悟を世界に示すため、目標の大幅引き上げは避けられない。生物多様性の取組みも重要。今年、脱炭素スーパーイヤーであり、グリーンリカバリーに向けた転機となる重要な年。

<トークセッション>

コロナ危機も気候危機も、地球環境の危機の問題であり一体のもの。ライフスタイルを変え、経済社会システムを変革する大胆な対策をとらないと、今後により多くの影響が及ぶ。特に、カーボンニュートラルは達成が難しいといわれるが、今、まさに大胆に変わらないといけない。

危機への対応を経済政策として織り込んでいるものがグリーンリカバリー。

日本では、気候変動対策そのものがマイナスという価値観が、取組みを阻んでいる。

日本には士気も技術も人材もあり、できることが非常に多くある国。脱炭素に向けて価値観を改め、高い目標を掲げて走り出すことが重要。





気候変動フォーラム

～気候変動への挑戦とコロナ禍からのグリーンリカバリー～

2021.3.27(Sat) 14:00～16:00 オンライン配信 (視聴無料)

パネルディスカッション登壇者



ファシリテーター
高瀬 香絵
(一般社団法人CDP
Worldwide-Japan)



大野 輝之
(公益財団法人
自然エネルギー財団)



金井 司
(三井住友信託銀行)



倉石 東那
(持続可能な社会に向けた
ジャパンユースプラットフォーム)



小西 雅子
(WWFジャパン/
昭和女子大特命教授)



白井 祐介
(MS&ADインシュアランス
グループホールディングス
株式会社)



釣流 まゆみ
(株式会社セブン&アイ・
ホールディングス)

<取組紹介>

登壇者 (敬称略)	活動概要
小西雅子 WWFジャパン専門ディレクター (環境・エネルギー) / 昭和女子大特命教授	企業や市民がどのように気候変動の国際交渉を動かしてきたかについて
釣流まゆみ 株式会社セブン&アイ・ホールディングス執行役員 / 経営推進本部サステナビリティ推進部シニアオフィサー	再生可能エネルギー100%で電力を賄う店舗実証やペットボトル回収等セブン&アイグループの取組みについて
大野輝之 公益財団法人自然エネルギー財団常務理事	自然エネルギーの動向と企業、自治体に広がる2030年自然エネルギー目標引き上げの提言について
金井司 三井住友信託銀行フェロー役員 チーフ・サステナビリティ・オフィサー	サステナブル金融と気候変動問題への対応について
白井祐介 MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社執行役員 総合企画部長	気候変動リスクと保険会社の役割、備えについて
倉石東那 持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム事務局長	持続可能な社会に向けた、団体活動における課題意識について

<環境省からのメッセージ>

2050年カーボンニュートラルを踏まえ、日本全体の取組みをもう1, 2段スケールアップさせていきたい。





<同時開催>ME-BYOシンポジウム2021

～ 未病改善を通じた健康づくりと感染症対策 ～

2021.3.27(Sat) 10:00 ～ 12:00 オンライン配信(視聴無料)

セッション登壇者



山本 舞衣子
(フリーアナウンサー)



松本 洋一郎
(実行委員長
/東京理科大学)



黒岩 祐治
(名誉実行委員長
/神奈川県知事)



向井 千秋
(医師/宇宙飛行士)



鄭 雄一
(神奈川県立保健福祉大学)



浦島 充佳
(東京慈恵会医科大学)



前野 隆司
(慶應義塾大学)



酒匂 真理
(株式会社 miup)

<基調講演(向井千秋医師/宇宙飛行士)>

地球に帰還したときに、ふわふわした手が膝の上にある、ヘルメットが重い、といった経験によって、地球がすごい環境だということ、人類はこういう重力に打ち勝って日々暮らしているということに感激した。

宇宙空間の特殊性(微少重力、放射線、閉鎖性等)による症状は老化現象に似ていて、宇宙における医学的アプローチは地球上の健康にも活用できる。そういう意味で宇宙医学は究極の予防医学と考える。

未病は従来の医学における白(健康)と赤(病気)という括りではなく、健康と病気を連続的であると捉えており、素晴らしいと感じる。未病は宇宙医学の考え方に近い。

宇宙の観点から人が生き生きと生きていくためには、探索、共通の問題解決、多様性の包含ということが大事。

グローバル化が進む中、自分のコミュニティのことだけでなく、すべての人が共存していくという考え方を一人ひとりが持つ必要がある。



<トークセッション>

SDGs、そして「Vibrant INOCHI」実現に向けては「つながっている」という感覚が一番大事。医療、環境、経済、全て繋げて考える事が必要。

「宇宙船地球号」の考え方で、全体のつながりを一人ひとりが理解して動くことが大切。WHOも、人、動物、環境などを分けては考えない。「Vibrant INOCHI」を自分事化して、つながりを意識して行動することが重要。

未病改善の柱は食・運動・社会参加で、社会参加の部分でコミュニティが大切。コロナ禍のステイホームで改めてつながりの大切さとテクノロジー活用の可能性が示された。今後はSTI for SDGsがますます重要になってくる。



黒岩祐治神奈川県知事

向井千秋医師/宇宙飛行士

松本洋一郎東京理科大学学長

<パネルディスカッション「コロナ禍における『いのち輝く』ME-BY0の実践」>

すべての死因を含む2020年の日本国内の死亡者数は、1万人弱減っている。一人ひとりの感染対策や普段の生活の食事や運動にはすごい力がある。

コロナ禍において、心身の健康を保つため、今後必要な取り組みとして、ワクチンの開発、接種とともに、メンタル面への適応も重要。コップの水を「こんなに残っているか」「これしかない」と捉えるか、もの見方を変えることが大事。

先が見えない時代を乗り切るためには、人と適切なコミュニケーションをとって信頼関係を深め、力を合わせる事が重要。

オンラインをうまく活用することや、あまり恐れすぎずに、しっかり感染対策をとったうえで外に出て、人とつながる活動をする事も必要。

自分が好きなことと、社会のために何ができるのかを考えることが大切。やりがいをもってみんなのためにみんなが生きれば、平和な世の中も実現できる。利他の考え方が大事で利己とは相反しない。

未病は色々なことの自分ごと化、個人がエンパワーメントしていくことである。そこから自分らしい生き方を模索することにまで広がっていくテーマである。



鄭雄一

神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスインノベーション研究科研究科長・教授/東京大学大学院 工学系研究科・医学系研究科 教授/COI副機構長



浦島充佳

東京慈恵会医科大学 教授 分子疫学研究部部長 小児科専門医



前野隆司

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授/慶應義塾大学ウェルビーイングリサーチセンター長兼務



酒匂真理

株式会社miup 代表取締役/SFC上席研究員





国連WFPと一緒にゼロハンガーへ (今日からできるSDGs Actions)

2021.3.26(Fri) 16:00 ~ 17:00 オンライン配信(視聴無料)

セッション登壇者



MITSUMI
(FMヨコハマ DJ)



焼家 直絵
(国連 WFP 日本事務所 代表)



内藤 貞子
(カリタス小学校 校長)



赤松 志野
(カリタス小学校)



山下 結香
(青山学院大学)



大岩 麗奈
(青山学院大学)



川口 信弘
(一般社団法人 GOOD ON ROOFS 専務理事)

< 基調講演(焼家直絵国連WFP日本事務所代表) >

紛争、貧困、男女間格差、自然災害、気候変動といった諸課題の中でも、紛争防止につながるという観点からWFPの食糧支援活動が高く評価されノーベル平和賞につながった。

ノーベル賞を受賞したことで認知度が向上する一方で、活動への支援がますます重要になった。

紛争地で給食は食料支援というだけでなく、子供たちのいのちを守ることもつながる。その意義も知ってほしい。



< 取組紹介 >

団体名	活動概要
国連WFP協会	WFPウォーク・ザ・ワールド(10月に横浜、大阪、名古屋で開催予定)。WFPチャリティーエッセイコンテスト。
カリタス小学校	WFPエッセイコンテストへの応募など小さな種をまくことで、自分たちにできることを考え、行動に移すとともに、困っている人に寄り添い、地球に生きる人間としての歩みを目指している。
SANDS (青山学院大学)	活動の核となる「1016キャンペーン」。大学生でも身近なことからSDGsアクションを起こすことができる。
GOOD ON ROOFS	企業等の屋根を借りて大型の太陽電池を設置。賃料相当分を、企業等のCSV活動として、途上国の支援等に充当し電気を提供する。



誰もが、世界を変える力を持っている。 ～ ユース世代からの行動のメッセージ ～

2021.3.26(Fri) 12:30 ~ 14:10 オンライン配信(視聴無料)

セッション登壇者



高木 超

(慶應義塾大学大学院特任助教)



たかまつ なな

(お笑いジャーナリスト)



飯山 智史

(EMPOWER Project 共同代表)



小澤 杏子

(ユーグレナ初代 CFO)



平 希井

(NPO法人循環生活研究所)



田才 諒哉

(ササカワ・アフリカ財団)



能條 桃子

(一社)NO YOUTH NO JAPAN



ルイスロビン敬

(一社)Social Innovation Japan

<基調講演（高木超慶應義塾大学大学院特任助教）>

2030年という10年後の未来からのバックキャストがSDGsの特徴である。ユース世代もどのような社会にしていくのかというのを未来から逆算し、そのために何をしなければいけないのか、考えていく必要がある。

<クロストーク>

10代～30代のユース世代が自身の活動の発信とジェンダーやポストコロナ社会などのテーマなどについて、クロストークを行った。特に、行動を起こすために重要なこととして、次の意見が提起された。

- ・身近でできることから始めること。マイボトルやエコバッグの使用が格好いいと思える社会に変えていくこと。
- ・バックグラウンドの違う様々な人を知り、視野を広げて、アクションしていくこと。
- ・楽しく一緒に活動する仲間を作りアクションを続けて社会を変えていくこと。

・継続すると見えるものがあるため、違和感を大切にして、活動を継続していくこと。

・若者ならではの視点で発信し、今までの世界の蓄積の上に活動を積み上げていくこと。

・社会システムを変えていくために、一緒に活動できる仲間を増やしていくこと。



SDGs Quest みらい甲子園

～神奈川県大会～

みらいは私たちが創る！
アイデア募集



将来の担い手である高校生が、持続可能な社会を目指した「SDGsアクション」についてアイデアを発表するコンテスト。応募94チームから選ばれた10チームがアイデア等を発表。

出場チーム	学校名
SKY'S THE LIMIT	鎌倉女学院高等学校
SKY Blue	聖園女学院高等学校
世界征服from YIS	神奈川県立横浜国際高等学校
立花学園高等学校鉄道研究部	立花学園高等学校
たまねぎ姉妹	鎌倉女学院高等学校
桐蔭学園高等学校 GISゼミ	桐蔭学園高等学校
トランジションゼミ同好会	桐蔭学園高等学校
2年スタンダード専攻チーム	星槎学園高等部湘南校
秦野高校ホテル探究会	神奈川県立秦野高等学校
ハマユウ	平塚学園高等学校

SDGsアクション大賞(SDGsの目標達成に貢献する最も優れたアクションのアイデア)

チーム名	トランジションゼミ同好会	対象ゴール
探求テーマ	障がいとはひとつの個性 ～パラスポーツ体験会を通じて～	ゴール5、8、10
アイデアの概要	障がい者への差別や偏見をなくすために、パラリンピック種目を体験できる「パラスポーツ体験会」を企画、開催するアイデア。女性など社会的弱者と呼ばれる人にもスポーツをしてもらうことでジェンダー問題の解消に繋げるとともに、障がい者スポーツ市場の拡大で新たな雇用・働きがい生まれ、レクリエーション市場の拡大にも繋げる。	

(SDGsアクション大賞 受賞の喜びの声)

他のチームのアイデアがとても素晴らしく、選ばれると思わなかった。すごくうれしい。これからも、色々な人と協力しながら活動を継続していきたいです。



(大賞発表の瞬間)

SDGsアイデア大賞(SDGsの目標達成に貢献する優れたアクションのアイデア)

チーム名	たまねぎ姉妹	対象ゴール
探求テーマ	鎌倉発祥のSDGsレストラン誕生！ ～鎌倉の活性化と食品ロス削減に貢献～	ゴール2、11、12、17
アイデアの概要	鎌倉市内の空き家を活用し、売り切れなかった鎌倉野菜を使ったメニューを提供する鎌倉発祥の新たなSDGsレストランを設立するアイデア。売り上げの一部は、環境保全活動に寄付する仕組みも考案。	

企業賞(東京海上日動火災保険賞)

(企業との協働によって、今後事業の広がりや高い普及効果が期待されたアイデア)

チーム名	桐蔭学園高等学校 GISゼミ	対象ゴール
探求テーマ	みんなのBOSAIプラン3.0	ゴール4、9、11
アイデアの概要	映像コンテンツ、RPG、ICT教材という三本柱を活用することで、自らを守る(自助)だけでなく地域の「頼れる防災リーダー」(共助)として活躍できる人材を育てることを目指した新しい防災教育プロジェクト。2022年度から高校必修科目となる地理総合の防災分野での導入を目指して、各高校の文化祭などを通じた外部への発信も計画。	





外国につながるのある私たちと日本の学校

2021.3.26(Fri) 14:50 ~ 15:50 オンライン配信(視聴無料)

セッション登壇者



滝坂 信一
(JICA 横浜)



安富祖 樹里
(NPO 法人 ABC ジャパン)



太田 亜理佐
(東川町インクルーシブサポーター)



ナイム・サード・ビン
(有限会社友元機械)

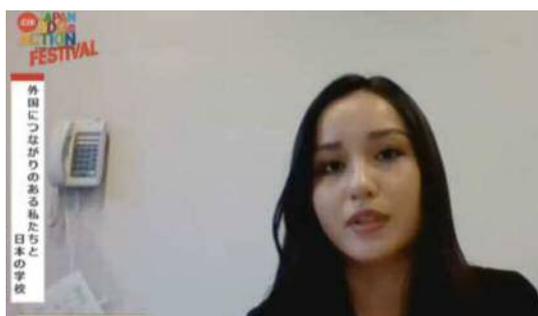
<趣旨説明>

SDGsの理念である普遍性と包摂性を踏まえ、子どもたちが自分の良さを受け入れ、多様な他者を認め、ともに支えあい、学びを通じて可能性を開花するインクルーシブな学校づくりを、JICA横浜と神奈川県教育委員会が令和2年から連携して進めている。

<トークイベント>

神奈川県内の小中学校で育ち、現在社会人となっている3名の若者が、日本での学校生活について、当時を振り返るとともに、今後取り組むべきアクションを探った。

- ・自分の出身を自分自身が知る事、そして子ども自身に自分のルーツや文化を語る機会を与えてあげることが大事。
- ・同じルーツを持つ子と会う機会を作る、日本の学校がどういう仕組みなのかをきちんと説明することも重要。
- ・大変な事だけではなくて、良いこともたくさんあるという話をしてあげることが重要。





未来へのアクション! ～ 高校生ボランティア ～

2021.3.27(Sat) 14:00 ~ 14:30 オンライン配信 (視聴無料)

セッション登壇者



世良 マリカ
(モデル・タレント)



宮城県農業高等学校
「農業経営者クラブ・スマホ語り部」



鈴鹿中等教育学校
「二代目SOM(Save the Ocean Men)」

東京学芸大学附属国際中等教育学校 「ソーシャルアクションチーム」

神戸市立科学技術高等学校 「空飛ぶ車いす研究会」

ぐんま国際アカデミー中高等部 「女子高生ヘアドネーション同好会」

<概要>

高校生ボランティア・アワードに出場している5つの学校の取組みを動画で紹介。

一人ひとりが身近な課題を克服するためにアクションを重ねていくことの重要性が改めて感じられた。

- | |
|---|
| ①神戸市立科学技術高等学校
空飛ぶ車いす研究会 |
| ②ぐんま国際アカデミー中高等部
女子高生ヘアドネーション同好会 |
| ③東京学芸大学附属国際中等教育学校
ソーシャルアクションチーム |
| ④宮城県農業高等学校
農業経営者クラブ |
| ⑤鈴鹿中等教育学校
二代目SOM(Save the Ocean Men) |

<2つの取組みについて、具体的に紹介>

宮城県農業高等学校 農業経営者クラブ

- ・スマホアプリを使った「語り部」。
- ・震災の記憶のない小学生たちに震災体験を伝えていくのが自分たちの責任。



鈴鹿中等教育学校 二代目SOM(Save the Ocean Men)

- ・いつも清掃活動をしている千代崎海岸からオリジナルソングを披露。
- ・作詞作曲は学生自身。作詞のキーワードを電話で持ち寄って作った。気に入っている歌詞は「誰かのせいにしたくない」の箇所。自分事を取り組まないと変わらないという気持ちを大切にしたい。





Z世代の環境活動家の“頭の中”を 田原総一郎が直撃 by 相席なま田原

2021.3.27(Sat) 14:40 ~ 15:20 オンライン配信(視聴無料)



田原 総一郎
政治評論家



露木 志奈
環境活動家



<概要>

そもそも環境問題に興味を持ち始めたきっかけは家族のための安全な化粧品づくり。容器や中身について調べていた時に、環境とつながる部分が多かった。

ヨーロッパの先進国に比べて、日本では環境問題に関する情報が取り上げられていない。それが、環境問題や気候変動に危機感を持たない一因ではないか。

消費者の選択が世の中を作る。その選択が変わることによって、問題も解決していく。

環境問題のような正解が無い問題については、一人ひとりが自分の意見を持って行動していくことが重要。日本では環境問題に対して、興味があるわけでもないが、まったく興味が無いわけでもない人が半数以上いる。こうした人達が環境問題の解決に向けて動くようになれば、社会を変えていくことが出来る。

2030年までに一人ひとりが行動をしてほしい。





私たちが行動する中高生になったわけ

2021.3.27(Sat) 15:40~16:20 オンライン配信 (視聴無料)



上田 壮一
(一般社団法人シンク・ジ・アース)



入江 遼斗
(横浜国立大学)

武田 智生 (湘南学園中学校高等学校 チョコプロ)
 小清水 萌杏奈 (湘南学園中学校高等学校 チョコプロ)
 三浦 衣咲 (湘南学園中学校高等学校 チョコプロ)
 脇田 千由 (千葉県立小金高等学校 「インディバ」チーム)
 齋藤 真裕 (千葉県立小金高等学校 「インディバ」チーム)
 坂元 愛佳 (千葉県立小金高等学校 「インディバ」チーム)
 中出 ほたる (東京都立武蔵高等学校附属中学校 やさしいせいふく)
 福代 美乃里 (東京都立武蔵高等学校附属中学校 やさしいせいふく)

<概要>

SDGsに関する活動をしている3組の中高生が、先輩大学生からの3つの問いに回答。

1 取組みについて

<チョコプロ>

チョコレートという身近なところから児童労働などの社会問題を考える。横浜・みなとみらいのクイーンズスクエアにて大規模なイベントを開催。

<インディバ>

パン屋と農家をつなぎ、高校生の目線で商品を開発。飲食店から余った食材の提供を受け、子ども食堂に提供する活動など、SDGsに関連した町おこし。

<やさしいせいふく>

環境にも人にも世界にも優しい服を作るという理念のもと、まずはスクールTシャツをサステナブルなものに変えていく活動を進めている。

2 何故、行動する中高生になったか

「友だちの存在」「自分への挑戦」「好奇心」「使命」「他人事は嫌だから」等のキーワードに思いを添えた説明があった。

3 視聴者に今伝えたい事

「取りあえず行動に移すこと」「自分の視野を広げていくことが大事」「悩むことを楽しむ」「視点を変えて物事を見る」など、具体的な経験に則した発信があった。





「論語と算盤」で SDGs

～ 渋沢栄一に学ぶ ～

2021.3.26(Fri) 12:50 ～ 13:20 オンライン配信(視聴無料)

セッション登壇者



渋沢 健

(シブサワ・アンド・カンパニー株式会社 代表取締役
/ コモンス投信株式会社取締役会長)



MITSUMI

(FM ヨコハマ DJ)

<概要>

日本近代資本主義の父、渋沢栄一氏がいう「論語」と「算盤」は一見全く異なるもの、これを「と」で今ある現状と飛躍した未来をつなげることが大事。

また、「現在」と「未来」をつなげる「人間力」を高めることが大事。人間しかできない。それゆえ人材育成が大事。人は磨くと「摩擦」が生じる。チャレンジが必要。人は変化がない方が楽だが、違う環境に移ると「変化」が生じる。

異なる国をつなげる「と」、経営層と若手をつなげる「と」、SDGsでいえば、つなげることで新しいことが生まれてくる。

3つの言葉をなくすと日本はよくなる。「前例」がない「組織」が通りません「誰が責任をとるのか」。

未来志向と人材を生かす適材適所が大事。たいてい人は自分は何が向いているのかわからない。しかし違う環境に自分を置いてみると何となく見えてくる。年功序列やジェンダー平等などが適材適所を阻んでいる。

新しい時代には新しい人材が必要。「と」にはクリエイションが求められる。

理想の日本の姿は、メイド・ウイズ・ジャパン。昭和のメイド・イン・ジャパン（日本で大量生産）。平成のメイド・バイ・ジャパン（あなたの国で作ります）。令和は世界と一緒に成長するメイド・ウイズ・ジャパンを求めてもっともっとよい世界を作っていく必要がある。





ローカルSDGsのデザイン ～ 地域循環共生圏の作り方 ～

2021.3.26(Fri) 14:30 ～ 17:00 オンライン配信(視聴無料)

セッション登壇者



中井 徳太郎
(環境省環境事務次官)

伊藤 綾 (きら星株式会社代表取締役)
 茂原 隆久 (株式会社タナックス執行役員 営業本部 兼 購買本部 本部長)
 前川 真司 (株式会社みんなの奥永源寺代表取締役)
 岡村 幸代 (環境省大臣官房環境計画課環境経済政策調査室長)
 川本 恭治 (城南信用金庫 理事長)
 鈴木 雅剛 (株式会社ボーダレス・ジャパン代表取締役副社長)
 森 雅俊 (プラネット・テーブル株式会社代表取締役社長)
 山内 幸治 (NPO 法人 ETIC. 理事・事業統括ディレクター)
 松田 尚之 (環境省大臣官房環境計画課長)

< 基調講演(中井徳太郎環境省環境事務次官)>

環境省では、地球環境が危機を迎えているため、今までの経済・社会システムを変革する必要があると認識している。特に脱炭素には力を入れ、二酸化炭素の排出削減が上手くいっている先行地域の事例をドミノ倒しのように全国に広めていくことを考えている。

< 事例発表 >

- ・きら星株式会社
暮らしの変化と地方移住～新潟県のローカルベンチャーの現場から～
- ・株式会社タナックス
Straw of Straw (ストロー オブ ストロー) ～福井から世界へ～
- ・株式会社みんなの奥永源寺
「奥永源寺地域」から見る「地域循環共生圏」の可能性。

< パネルディスカッション >

地域循環共生圏に関するビジネスを始めるにあたっての最初のポイントは、地域の課題をいかに感じ取れるかにかかっている。その課題認識を周囲に発信していく中で、課題解決のアイデアが生まれる。

周囲に相談する人がいないときは、信用金庫等に相談窓口があるので、随時利用することを検討してほしい。

いかに周囲の人を巻き込んでいくかがポイントになってくるため、地域や社会のためという観点が重要である。また、個人で取り組むと属人的になってしまって、継続性が失われる。関係者がそれぞれ持っている資源をシェアリングして取り組むことが重要である。





企業価値を向上させる SDGs とは

～地域 ×SDGs× ビジネス SDGs インディケーターが変える未来～

2021.3.26(Fri) 13:30 ～ 14:40 オンライン配信(視聴無料)

セッション登壇者



川久保 俊
(法政大学准教授)



加藤 宗兵衛
(一般社団法人 SDGsマネジメント
共創代表)



原口 真
(MS & ADインターリスク総研株式会社
フェロー)



吉橋 明日香
(外務省国際協力局地球規模課題総括課)



石田 英誉
(公益社団法人日本青年会議所
持続可能なビジネス推進委員会 委員長)

<基調講演(川久保俊法政大学准教授)>

指標とは、現状の理解を促し、次のアクションにつなげるもの。国連のグローバル指標は発展途上国前提。先進国の日本にはあわないものが多い。

地域特性に合わせたローカル指標の可視化が必要。またそれに紐づけたSDGsコンパスの指標(ビジネス指標)のデータベースを使うことで企業はSDGsアクションにつながる。

<パネルディスカッション「インディケーターの可能性について」>

指標は、行政ばかりに浸透していて、地域の企業には共有されていない。指標に沿って行動すれば活動は加速化する。

日本企業のビジネスモデルは元来SDGsと親和性が高い。欧米の株主重視の資本主義から日本のようなステークホルダー資本主義への、今まさに折り返し地点。

SDGsは大人も生涯教育に取り入れるべき。究極はパーソナルインディケーター。

本物のリーダーを育てることで地域も経済も良くなる。学校現場では今SDGs教育が進んでいる。SDGsに取り組んでいる企業かどうか若い人の会社選びの物差しになってくる。

SDGsは誰かにやってもらうものではなく自分でやるもの。そのためにもインディケーターは重要であり、大きな可能性がある。





地産地消で守る! 生物多様性

2021.3.27(Sat) 12:20 ~ 13:40 オンライン配信(視聴無料)

セッション登壇者



五箇 公一

(国立環境研究所生態リスク評価・対策研究室室長)



小原 壮太郎

(環境省 森里川海アンバサダー
一般社団法人 the Organic 代表理事
全国有機農業推進協議会 理事)



NOMA

(環境省 森里川海アンバサダー・モデル)



鎌田 安里紗

(環境省 森里川海アンバサダー
エシカルファッションプランナー
一般社団法人 unisteps 共同代表)

<基調講演(五箇公一国立環境研究所生態リスク評価・対策研究室室長)>

生物多様性の保全は、人間社会持続の安全保障として人類全体として取り組むべき課題。

常に生態系はバランスを取ろうという力が働いており、オーバーフローする生き物がいれば必ず天敵が進化する。遺伝子の多様性がないと滅びる可能性が高くなる。

グローバル化からの脱却及びローカリゼーションと持続的社會へのパラダイムシフトが大事。具体例が地産地消。農産物だけの話ではなく、資源エネルギーを地域レベルで循環させることも含む。

コロナ禍で、人間社会がどう進化していくかということが試されている。



<トークセッション>

生物の多様性を守ることは、イコール人間社会を持続させるものである。同時に、生物は利他関係や共生関係を結びながら、長い歴史を経て進化していることを理解する必要がある。

生活スタイルや社会の在り方をしっかりと変えていくことを今から議論していく必要がある。

生物多様性に興味のない人々にどのように届けるかが課題。こういう時代だからこそ、輪を広げることが重要である。





一人一人の力を生かす「新しい復興支援」

2021.3.26(Fri) 11:30 ~ 12:10 オンライン配信(視聴無料)



のん

女優・創作あーちすと



荻上 チキ

評論家・編集者



ファシリテーター

木村 充慶

FUKKO DESIGN 理事



<概要>

SDGs People第1号である のんさんと、様々な支援の形を紹介する「災害支援手帖」をまとめられた荻上チキさんのお二人が、多くの人に参加する「新しい復興支援」の秘訣について語った。

のんさんからは、「東北とつながっている感覚」が大切で、一度東北の事が好きになると、思い入れが出来て東北を盛り上げたいという気持ちが膨らんできて、自然に復興支援に繋がるという自分の想いが語られた。

荻上さんからは、民間の支援は、たまたまあった縁から、その縁を鼻負して支援し続けていく、その縁を深くするために様々な活動があって、意味のあるものに発展していくことが大事という話があった。





SDGs 関連アワードが集合!

2021.3.26(Fri) 11:10 ~ 12:40 オンライン配信(視聴無料)

セッション登壇者



MITSUMI
(FMヨコハマDJ)



大石 英司
(みんな電力株式会社 代表取締役)



高橋 巧一
(株式会社日本フードエコロジーセンター 代表取締役)



川崎市立平間小学校



織田 友理子
(一般社団法人WheelLog 最高経営責任者(CEO))



梯 輝元
(福岡商店街振興組合 理事長)



森山 和浩
(モリショウグループ株式会社モリショウ 代表取締役)

アワード名	団体名	概要
ジャパン SDGs アワード	みんな電力株式会社 (東京都世田谷区)	ブロックチェーンを活用した「電力トレーサビリティ」システムの商用化を世界で初めて実現し、「どの発電所からどれだけの電気を買ったのか」を見える化。
	株式会社日本フード エコロジーセンター (神奈川県相模原市)	食品廃棄物を有効活用するリキッド発酵飼料(リキッド・エコフィード)を産学官連携で開発し、廃棄物処理業と飼料製造業の2つの側面を持つ新たなビジネスモデルを実現。
	川崎市立平間小学校	地域資源を最大限に活用して、子どもたちが主体的に考えて行動する取組を重視し、様々なステークホルダーを結集してSDGsを学び、地域を巻き込んだ様々な事業を展開。<動画配信>
STI for SDGs アワード	(一社) WheelLog (東京都千代田区)	高齢者やベビーカーを利用する子育て世代など、移動に困難を抱える全ての人にとって重要なバリアフリー情報を共有できるスマートフォンのアプリケーション(WheelLog!)を開発。
SDGs クリエイティブアワード	魚町商店街振興組合 (福岡県北九州市)	SDGsが目指すパートナーシップや地域のいろいろな人が自律的に活動し、年齢や職業を超えてコミュニティとして取り組む姿、繋がっていくことを映像に収載。
脱炭素 チャレンジカップ	モリショウグループ (大分県日田市)	木質バイオマス発電を通じた林業家との連携や地産地消の電気を市内の全小中学校や市内の公共施設などに供給する木質バイオマス発電を核としたSDGsへの取組の推進。





SDGsの伝え方

2021.3.27(Sat) 12:30 ~ 13:00 オンライン配信(視聴無料)



新谷 学
週刊文春編集局長



関 龍彦
講談社 FRaU編集長 兼 プロデューサー



MITSUMI
FMヨコハマDJ

<概要>

週刊文春は、本音のSDGsを伝えるのが役割と自らは考えている。手間暇かけて事実を積み上げて真実を伝えるのがモットー。文春が書いていることは真実というブランドが浸透していると感じている。SDGsに対しても、真のSDGsを発信したい。ネガティブ、ポジティブ両方を発信することで、自分達が取り上げれば本物のSDGsという信頼につなげたい。

FRaUは、女性紙を開く気分でSDGsを手にとってほしいというコンセプト。良いところ見つけて発信しSDGsへの共感を得ていきたい。伝わらないのは発信していないのと同じ。企業自身が発信するとかたくなるが、自分達が柔らかくして伝えることで、浸透するようにしたい。信頼につながるブランド感を作りたい。

SDGsを義務的にとらえると息苦しくなって続かない。日常生活の中でできることはいくらでもある。何でもかんでもダメと息苦しくするのではなく、持続可能なSDGsを目指したい。

SDGsは敷居が高く、意識高い系の人だけが取組むものと考えられがち。それをどう広げていくか。

面倒にしたらつづかない。SDGsアクションしたら自分が気持ちよくなるというのが大事。

教育現場ではSDGsがだいぶ取り入れられている。将来、会社選びの基準の一つになる。自分達の世代だけ良ければよいというのではダメ。まさにSDGs。





ファッションと SDGs

2021.3.27(Sat) 13:10 ~ 13:50 オンライン配信(視聴無料)



青沼 愛

鎌倉サステナビリティ研究所 代表



竹下 隆一郎

ハフポスト日本版 編集長



林 慶

ハフポスト日本版 Student Editor



<概要>

衣服の製造過程においては、劣悪な労働環境や環境破壊といったことが大きな課題となっている。

2013年にバングラデシュでおきた「ラナ・プラザの悲劇」がきっかけとなり、ブランドの行動変容が起こっているが、近年は消費者からも、衣服が提供されるまでのサプライチェーン全体が注目されるようになっており、企業も組織体制の強化や情報公開の推進等を通じて、課題解決に取り組んでいる。

サステナブルな商品は高額であることが多いため、リーズナブルな値段で提供されるよう、消費者側からも行動していくことが重要である。

普段の買い物だけではなく、サステナブル商品について、インターネットで検索したり、就職活動で話したりすることで、企業の行動に影響を与えることができる。

一方で、完璧でないと発信しづらいという向きもあり、「頑張っているけど、まだまだ課題がある、応援してください」、と言える企業や雰囲気をつくる社会が作っていくことが大切となる。

洋服については、寄付が必ずしもプラスの効果をもたらすことばかりではないので、コミュニティで回すことが大事に使うことの意識の醸成にもつながる。





クロージング

2021.3.27(Sat) 16:20~17:00 オンライン配信 (視聴無料)



マリナ・ポンティ
(国連SDGアクションキャンペーン・ディレクター)



黒岩 祐治
(神奈川県知事)



蟹江 憲史
(ジャパンSDGsアクション推進協議会会長)



吉田 綾
(外務省国際協力局地球規模課題総括課長)



川廷 昌弘
(ジャパンSDGsアクション総合プロデューサー)



堺井 啓公
(公益社団法人2025年日本国際博覧会協会広報戦略部長)

<ユース世代>

露木 志奈 (環境活動家) / ルイスロビン敬 ((一社)Social Innovation Japan) / 田才 諒哉 (ササカフ・アフリカ財団) / 武田 智生 (湘南学園中学校高等学校) / トランジションゼミ同好会 (みらい甲子園神奈川県大会大賞受賞校) / 和田 恵 (SDGs-SWY共同代表)

マリナ・ポンティ
国連SDGアクション
キャンペーン・
ディレクター



<メッセージ抄>

世界のリーダーたちは、悪い習慣は変えられることをようやく理解し始めています。フェスティバルを通じて、若い人たち、女性の声は印象的で、こうした状況を世界の基準にしていきたいと考えています。

2021年には東京オリンピック・パラリンピック、2025年には大阪・関西万博が計画されており、日本が世界における動きを主導することができると思っています。私達は一緒になればより強くなれます。これは始まりにすぎません。SNSやテクノロジーを活用して多くの参加者を得ることができました。バーチャルとリアルを組み合わせることでやっていくことが出来ると思っています。

黒岩祐治
神奈川県知事



<メッセージ抄>

今回のアクションフェスティバルで特に感じたことは社会課題の解決にイノベティブに情熱的に取り組んでいる若者が想像以上に多かったということです。今後はそうした声や動きをいかに適切に社会全体で受け止めることができるか、次回のアクションに繋げていけるかが重要になります。神奈川県はこれからも多様なステークホルダーとのパートナーシップを一層強化し、日本のSDGs推進を牽引して参ります。

私は今回のフェスティバルを通じ日本は「Vibrant INOCHI」、「いのち輝く」という価値観を大事にすることでSDGs推進役として世界をリードできると改めて確信しました。私たちは今後もUNDPとの連携をさらに強化し、アクションフェスティバルを通じてSDGsに対する日本ならではのアプローチを世界に向けて発信していきます。

<トークセッション「アクションフェスティバルの成果をつなぐ」>

| 川廷昌弘総合プロデューサー

外務省他官公庁から御協力頂き、官民連携の協議会が立ち上がり、また多くの企業パートナーとの連携があってジャパンSDGsアクションを実施する事が出来た。更にUNDPとの共催でグローバルのフェスティバルのローカライゼーションも開催できたことは成果。

| 吉田綾外務省地球規模課題総括課長

SDGsのトランスフォーメーションを創る上で一番大事なものは、マルチステークホルダー、みんなが参加すること。今回、最初の一步が作れたのではないかな。

| 蟹江憲史会長

オンラインだからこそいろんな人とつながれるという事もあったと思うし、もっと他の所に広げていく可能性もあると思えた。SDGsのショーケースというか、好事例を示すことで、出来る人は真似しましょう、一緒にやりましょうということを出す良い機会になると強く感じた。



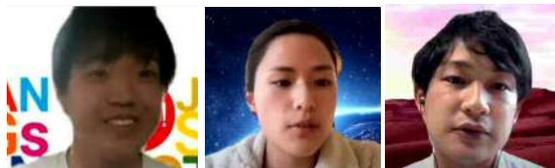
<ゲストスピーチ（堺井啓公公益社団法人2025年日本国際博覧会協会広報戦略局長）>

2025年の大阪・関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。

一緒にいのち輝く未来社会のデザインをしていきましょう。そして皆様のアクションにより、皆様の手でデザインした未来社会を実現していきましょう。

<ユース世代からのメッセージ>

- ◆ SDGsの活動を楽しもう！
- ◆ できることから始めよう！



武田智生 露木志奈 田才諒哉



ルイスロビン敬 トランジションゼミ同好会

和田恵
SDGs-SWY共同代表



若者の行動の意義は、若者は将来を担う、世界は変革を求めているという点にあります。若者がSDGsに関する意思決定にアクセスできるように、若者の参画をどうデザインしていくか、是非若者と大人と一緒に考えていきたいと思っています。また同世代の若者には、楽しい未来を創るというポジティブな気持ちで行動を加速していただきたいです。

<クロージングメッセージ（蟹江憲史会長及びユース世代）>

最後に言いたい事は一つ。失敗から学ぶことは多い。恐れることなく行動しよう！

JOIN! ジャパンSDGsアクション！



2015年のSDGs採択から5年が経過した今、国連は、目標年次である2030年までの10年間を「行動の10年」とし、SDGs達成に向けた取組を加速することを強く呼びかけています。

こうした中、地域での活動のヒントにさせていただくため、日本各地で展開されているSDGsの取組（ローカルSDGsアクション）の好事例を集約しました。

「行動の10年」におけるSDGsの取組のヒントとしてご活用ください。



地域	事例
岩手県陸前高田市	陸前高田市SDGs推進プラットフォーム
福島県郡山市	郡山市「COOL CHOICE」
神奈川県・神奈川県小田原市	SDGsつながりポイント「おだちん」
神奈川県川崎市	川崎ブレイブサンダース SDGsプロジェクト「&ONE」
神奈川県相模原市	1杯からはじめよう！脱・使い捨てアクション 麻布大学 X アサヒビール(株) X SC相模原 X 相模原市役所
福井県鯖江市	めがねのまちさばえのSDGs
長野県	SDGs diary movie (TRIANGLE)
静岡県富士市	はたらきたい人みんながはたらけるまち ～富士市が広めるユニバーサル就労～
愛知県豊田市	SDGs未来都市とよた
滋賀県	滋賀県におけるマザーレイクゴールズ(MLGs)の取組
奈良県生駒市	グッドサイクルいこま
岡山県真庭市	「上流のごみは、下流へ流れ着く」「そのバトンは、受け取れない」
長崎県壱岐市	Industry4.0を駆使したスマート6次産業化モデル構築事業

| SDGs Peopleからの メッセージ

SDGsにつながる取組 (=SDGs ACTION) を行うSDGs People。その取組を見える化し、社会全体と共有することで、一人一人のさらなるSDGs ACTIONを促進しています。

SDGs People第1号に就任したのんさんをはじめ、計27名・団体がSDGs Actionに向けたメッセージを発信しました。



(メッセージをいただいた皆様・敬称略)
 のん/たかまつなな/さかなクン/長谷部誠/
 藤巻亮太/SDGs-SWY 和田恵・高木超・秀島
 佑茉・落合航一郎/SUNSHOW GROUP従業員と
 ご家族/グリーンバード 中裕樹・澤登公
 孝・辻夕香(ぱあこ)・佐藤颯・コシミズ
 タカヒロ/講談社 関龍彦/Think the Earth
 上田壮一/TREE 水野雅弘/エシカル協会 末
 吉里花/2019年度少年少女国連大使 金丸泰
 山/GiFT 辰野まどか/日本フードエコロ
 ジーセンター 高橋巧一/the Organic 小原
 壮太郎/エール(株) 美宝れいこ/WORLD
 FESTIVAL 近藤祐希/ちきゅうの学校 小笠
 原愛

| 医療従事者等へのメッセージ

フェスティバルの登壇者等が医療従事者等
 に対して感謝の想いを伝えるメッセージ動
 画を配信しました。



(メッセージをいただいた皆様・敬称略)
 世良マリカ/さかなクン/SDGs-SWY 和田恵/
 独立行政法人国際協力機構 (JICA) 横浜事
 務局一同/ 国連世界食糧計画 (国連WFP)
 日本事務所 焼家直絵/シブサワ・アンド・
 カンパニー 渋谷健/Think the Earth 上田
 壮一/神奈川県立保健福祉大学 鄭雄一



| SDGs 169ターゲットアイコン

日本版の発表会

主催：SDGs 169ターゲットアイコン

日本版制作委員会

概要：SDGs達成へ向け、一人でも多くの人の具体的な行動を促進するために作成を進めてきた、SDGs 17のゴールの下に設定された169のターゲットアイコンの日本版コピー。
約3か月の選考を経て完成した日本版コピーを発表しました。



| 途上国支援・技術開発とSDGs

ー日本企業のアクションを広めよう

主催：株式会社日刊工業新聞社

概要：資金や人材に限られる中で、自社の利益を確保しながらSDGsに関する継続的な活動を展開している企業は、大手企業だけでなく中小企業にも広がりを見せているのが現状です。こうした企業の事例を取り上げることで、SDGsに対する貢献のあり方を提示し、同様の活動を展開する企業の輪を広めることを目的にカンファレンスを開催しました。

| SDGs アート展

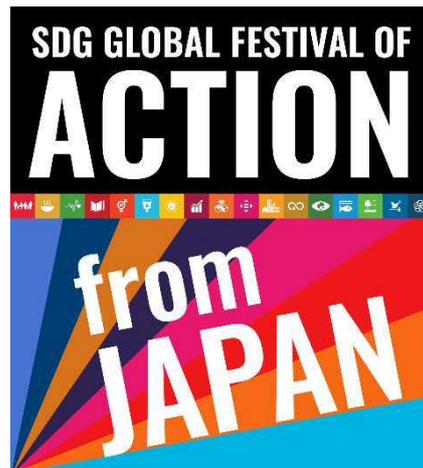
「Co-Exist・Co-Create」

主催：株式会社WATASU、SDGs17Club

概要：アートとスポーツを通して生物多様性や環境への理解を深め、具体的な行動を後押しする参加型ソーシャルグッドアクション。11月に行われた「スポゴミ大会in片瀬東浜」で集められた海岸のゴミを材料に作られたアート作品を通し、海の生き物から見る私たち人間の生活を考えるきっかけを提供。



SDGグローバル・フェスティバル・オブ・アクション from Japan <一部同時開催イベント>



本イベントは、国連事務総長の命を受け、国連開発計画（UNDP）が国連諸機関及び世界各国のために運営する「国連SDG アクションキャンペーン」及びジャパンSDGs アクション推進協議会が共催しました。同キャンペーンは、2017年より、世界のSDGs リーダーを集めて「SDG グローバル・フェスティバル・オブ・アクション」をドイツで開催してきましたが、2021年は初めてオンラインで開催し、また初めてのローカル版として、日本からの企画を全世界に発信しました。

今回のテーマは「世界を変えよう 人と地球のために」。コロナ禍や気候危機、不平等の拡大が世界を脅かし、人と地球が転換期を迎える中、持続可能な開発目標(SDGs)という未来への羅針盤を活用し、これまでの暮らし方を見直し、より良い復興に向けて世界を変えようと訴えました。



フェスティバル概要

名 称	SDGグローバル・フェスティバル・オブ・アクションfrom Japan
日 程	令和3年3月25日(木) 18:00~20:30 26日(金) 17:00~23:00
テ ー マ	世界を変えよう 人と地球のために #TurnItAround for People and the Planet <4本柱> 気候変動対策、貧困と格差、ジェンダーの平等、 包摂的なシステムと持続可能な金融
言 語	英語（英日同時通訳あり）
配 信	https://globalfestivalofaction.org/
アーカイブ	UN Web TV
参 加 者	SDGグローバル・フェスティバル・オブ・アクション 約24,000人（日本から約2,600人）
共 催	国連SDGアクションキャンペーン/国連開発計画 ジャパンSDGsアクション推進協議会



セッション一覧

セッション名	企画者	内容
トーク	国連開発計画(UNDP)	国連開発計画(UNDP)親善大使を務める女優の紺野美沙子さんから、「未来の私たちへのメッセージ」と題し、SDGs達成に向けた環境保全活動などに取り組む日本の高校生・大学生からのメッセージを紹介。国籍や年齢、ジェンダーなど多様な参加者に向け、「みんな違う、けれど思いは一つ」「フェスティバルを通して共に学び合い、行動を起こしましょう」と呼びかけました。
トーク	国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)	国連難民高等弁務官事務所(UNHCR) 親善大使を務めミュージシャン・俳優として活動するMIYAVIさんは、これまでレバノン、バングラデシュ、ケニアなどでの出会い、経験を紹介しながら、「音楽は人を変えられる、そして人は世界を変えることができる」「どれだけできるかは関係ない、大切なのはより良い世界と未来を作ろうという同じ意識をもつこと」などと熱くメッセージを発信しました。
パフォーマンス	国連開発計画 (UNDP) Supported by 国連広報センター (UNIC)	お笑い芸人のゆりやんレトリィバァさんが「ステレオタイプを乗り越えよう！自分を信じて」と題するパフォーマンスを披露。「これがわたし！」と女性のエンパワメントを表現しました。
飢餓のない世界	国連世界食糧計画(WFP) 国連食糧農業機関(FAO)	昨年、ノーベル平和賞を受賞した国連世界食糧計画(WFP)の日本人職員などがスーダン、ルワンダ、モンゴルから登壇。増加傾向にある飢餓の現状と、学校給食提供など、命を救い暮らしを改善する取り組みの紹介を行いました
気候変動への行動を促す金融のかたち	国連開発計画(UNDP) 国際通貨基金(IMF)	国際通貨基金(IMF)の専門家がコロナ後の経済展望を紹介後、コモンズ投信会長の渋澤健さんらが、持続可能な社会を作り、コロナ禍から復興するための社会・経済・環境とバランスの取れた金融システムのあり方について話し合いました。
SDGsを身近に：ローカルな活動で変革を！	国連人間居住計画福岡本部 (UN-HABITAT) 国連開発計画(UNDP)	黒岩祐治神奈川県知事らが登壇し、神奈川、福岡、フィリピン、ジンバブエ発の取り組みを発信。高齢化や貧困、フードロスなどの諸問題に対し、地方自治体やコミュニティ、地域住民が主体の活動を呼びかけました。
進めよう！変革志向の平等とエンパワメント	SDGs市民社会ネットワーク 国連開発計画(UNDP)	ジェンダー平等は基本的な人権であり、SDGsの様々な目標の達成の原動力にもなるものの、コロナ禍でその進捗が遅れていると警鐘を鳴らし、児童婚撤廃や女性のリーダーシップ推進等に必要アクションを議論しました。

セッション名	企画者	内容
本気で取り組むSDG12 “ごみから未来を考える”	UNEP 国際環境技術センター (UNEP IETC)	ごみ問題に対してできるアクションや、廃棄物の資源化について議論しました。お笑い芸人・プロデューサーの古坂大魔王さんは、タイのごみ集積所を訪れた時の経験を語り、「自分たちの身近な問題としてごみ問題を発信していきたい」と訴えました。
世界に変革をもたらすデジタル技術とイノベーション	国際連合工業開発機関 (UNIDO) 国連開発計画(UNDP)	コロナ禍で加速するデジタル化に焦点を当て、アフリカの無電化村への電力・インターネット供給が人々の暮らしを変えた事例などを紹介。「誰も取り残さない」世界の実現に技術をどう活用できるか、その可能性とリスクを議論しました。
若者を担い手に 何十億もの平和へのアクションを	国連広報センター(UNIC)	南スーダン、イラク、日本、アメリカの若手リーダーがAI・ICT・アート・音楽などをいながら平和を築く革新的なプロジェクトを紹介。中満泉国連事務次長・軍縮担当上級代表とともに、平和へのアクションを推進する若者の役割の重要性について語りました。
ボイス・オブ・ユース：SDGアクションの今とこれから	国連児童基金(UNICEF)	世界の13名の若きリーダーたちが、SDGs達成に向けたそれぞれの活動や課題を紹介。SDGムーブメントを盛り上げていこうと呼びかけました。
SDGスタートアップ・ストーリー	国連開発計画(UNDP)	アジア・アフリカの若手社会起業家4名が、自身のライフ・ストーリーや起業の道のり、失敗の乗り越え方や想いを語りました。
世界共通のゴールを目指してスポーツのチカラと難民	国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)	スポーツ活動に取り組む南スーダンの難民や、国際パラリンピック委員会会長のアンドリュー・パーソンズさんなどが登壇し、誰も取り残さない世界の実現に向けた難民支援におけるスポーツの可能性に迫りました。
ショートフィルム 「オフサイド」	国際移住機関 (IOM)	スイスで暮らすアラブ系移民の少年は、文化の違いからいじめを受けます。宗教や文化が異なる土地に暮らす親子の苦悩と希望を描いた映画。
ショートフィルム 「聖母の日」	国際移住機関 (IOM)	3つの言語を話す住民が混在する街で、お互いへの不満と暴動への不安から、壁が建設されます。分断された家族の結末は？

主なセッション



高藤秋子
RKB毎日放送
テレビ制作部長



エルド カシーニョ
カガヤン・デ・オロ市
 balanガイNo.22村長
(フィリピン)



ムクドゼイシェンシャイリエン
シャンテル カスクサ
インパクトハブ・ハラレ
オペレーション調整官
(ジンバブエ)



たいら由以子
ローカルフードサイクリング
代表取締役



黒岩祐治
神奈川県知事

SDG GLOBAL FESTIVAL OF
ACTION
from
JAPAN
#TurnItAround

**SDGSを身近に：
ローカルな活動で変革を！
LOCALIZING THE SDGS: BRING ABOUT
CHANGE THROUGH LOCAL ACTIONS!**

企画者
国連人間居住計画福岡本部(UN-HABITAT)
国連開発計画(UNDP)

LIVE
2021年3月26日
17:15 - 18:00 (日本時間)



globalfestivalofaction.org/japan

SDGs達成に向け、自治体やコミュニティにはどのような課題があり、それをどのように解決したか、各地域の取組みからヒントを探るセッション

<事例1 神奈川県 黒岩知事>
超高齢社会を乗り越える為に「未病コンセプト」に基づく政策を推進している。「若葉台団地」をモデルに、未病コンセプトをベースにコミュニティを活性化させ笑いあふれる「Vibrant INOCHI」の実現に向けて取り組んでいる。また、コロナ禍でも高齢者劇団の取組みも行った。

キーワードは自分事化と行動変容。今後も未病指標を活用し、「Vibrant INOCHI」の実現に取り組んでいく。



<事例2 福岡>
身近な家庭の生ごみやレストランの食べ残しや残渣の堆肥化とコミュニティ農園・屋上菜園・マルシェなど持続可能な栄養循環の促進を通じて、高齢者社会や引きこもり等の社会問題解決に帰するコミュニティを生み出す取組みを紹介。

<事例3 ジンバブエ>
人々の連帯とコミュニティの活性化を図るため、国際機関、大学、民間企業等と協力してIT研修の提供や起業家育成の支援、持続可能な街づくりを支援する取組みを紹介

<事例4 フィリピン>
水路再生プロジェクトについて紹介

SDGグローバル・フェスティバル・オブ・アクション



蟹江憲史会長はSDGグローバル・フェスティバル・オブ・アクションのオープニングセレモニーに登壇し、グローバル・フェスティバルの一環として、ローカル版のフェスティバル「SDGグローバル・フェスティバル・オブ・アクションfrom JAPAN」が初開催されたことに対し、日本を代表し開催国としての誇りを表明しました。

<オープニングセレモニー概要>

日程：3月25日 20：30～（日本時間）

主な登壇者：

- ・マリナ・ポンティ（国連SDGアクションキャンペーンディレクター）
- ・アヒム・シュタイナー（UNDP総裁）
- ・マリア・フランツィスカフラクスバルト（ドイツ政府代表）
- ・カーチャ・デルナー（ボン市長） など

<蟹江会長 挨拶抄>

COVID-19は、疾病として始まりましたが、それは危機的なものとなり、私たちが回復するには、すべての問題に総合的に行動し、同時に人々、特に最も脆弱な人々のニーズ、権利、思いを満たす必要があります。

そこで、2021年をターニングポイントにするというSDGグローバル・フェスティバルのテーマを歓迎します。パンデミックの荒廃と苦しみを無駄にしてはなりません。

他の国連加盟国と同様、日本でもSDGsに対する国民の意識が高まり、民間企業の取組が活発化していますが、課題は人々の行動をさらに強化することにあります。だからこそ、日本におけるスピノフをサポートし、そして日本のローカルアクションを刺激し、後押しするためにローカルイベントを開催します。

ジャパンSDGsアクション 協賛パートナー

 **au** じぶん銀行


MS&ADインシュアランスグループ


清水建設


SEVEN & i HOLDINGS

人も自然もすこやかに
東洋ライス

TOPPAN

 **日刊工業新聞社**

 **日本ガイシ**
NGK


magniflex

みんが電力

今日を愛する。
LION

LINE



朝日新聞

 **岩崎学園**


NTT Communications
Go the Distance.

 **大林組**
OBA YASHI

いのちをつなぐ
SARAYA

J:COM

湘南電力

 **住友ベークライト**

 **大和ハウス工業**
Dainipon House

おいしさのみなもと
 **FEED ONE**

 **FURUKAWA**
ELECTRIC GROUP

MIZUHO


SMBC
三井住友銀行
SUMITOMO MITSUI BANKING CORPORATION

 **三井住友信託銀行**


MUFG
三菱UFJ銀行

 **横浜銀行**

Design Your Life
 **RIVIERA**

ジャパンSDGsアクション推進協議会事務局 (神奈川県政策局いのち・未来戦略本部室内)

TEL:045-285-0909 HP: <https://j-sdgsaction.jp/>